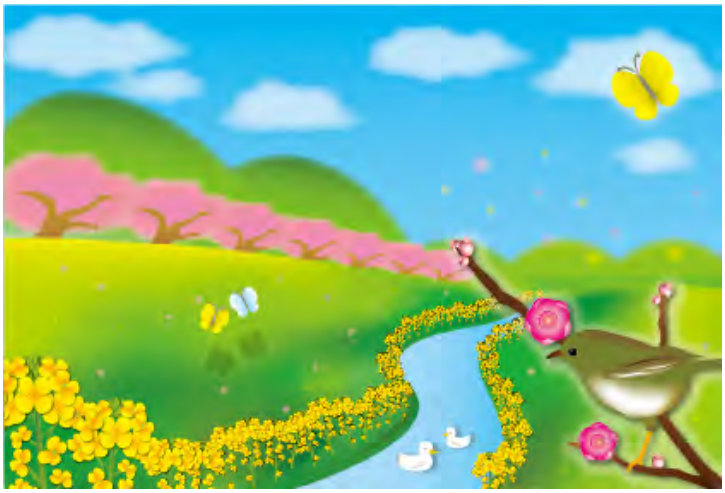
ユーホーム だより

U-Home

〒708-1222
岡山県津山市西中 329-1
株式会社 ユーホーム
TEL 0868-36-4372
FAX 0868-36-4498
u-home@mx1.tvt.ne.jp

第 60 号



環境破壊などにより地球が温暖化していると言われ、最近の冬はそのシーズン初めには「この冬は暖冬でしょう。」というニュースを毎年のように聞いている様な気がします。今年の冬も昨年の秋の長期予報では『暖冬』の予報でした。

しかし、今年の冬は非常に寒い日が多くありました。特に１月２４日の寒波では、西日本｛近畿、中国、四国、九州（沖縄を除く）｝すべての県庁所在地で氷点下を記録しました。
また沖縄では約４０年ぶり、史上２回目の雪を観測しました。いつもはほとんど凍結が起こらない九州では凍結に起因する破裂のため、そこらじゅうで漏水が起こり水源地の水が不足したところも多くあったということでした。もちろんこの地でもたいへんな寒さでした。また毎週毎週週末に寒波が到来し、この寒さはいったいいつまで続くのだろうかと思いましたが、寒波で覆われた日以外は比較的暖かな日が多く、平均気温は高めだったようです。

昨年末には春先の代名詞ともいえる菜の花の満開を目撃したり、タンポポの花を見つけたり、梅の花が咲きだしたり、この調子で行けば日本には『冬』という季節が無くなってしまうのかと思うほどでしたが、次々とやってくる寒波で何とか様になったようです。

事務所から北を見ると、奈義連峰三山の西にある山形仙がほぼ真北に見えます。その山形仙の少し東手前側にちょうどおむすびのように三角の形の金剛山が見えます。

３月に入って少しすると、その金剛山にだけぽつぽつと白いものが見えてきます。次第に増えてゆきしばらくすると山全体がその白いものだらけに見えてきます。おそらく「こぶし」が咲いているのだろうと思います。白いものは金剛山にだけしか見えません。

３月も後半になると金剛山のこぶしは見えなくなり、また元のモスグリーンの山に戻ります。ちょうどそのころ、その他の山の山裾で白いものが目立ってきます。その白いものは心なしか薄ピンク色のように見えます。おそらくその白いものが「山桜」だと私が勝手に思い込んでいるからでしょう。面白いことに今度の白いものは、金剛山以外の山だけで金剛山には一つも見えません。白いものは最初は山裾だけだったのにすごいスピードで山の中腹の方に広がって行きます。目を凝らして見ると、山にはこんなにもたくさんの山桜があったのかと驚くほどの多さで、それこそそこらじゅうに咲いています。しかしそれもつかの間、白いものは頂上に向かって上って行き４月中ごろを過ぎれば、頂上付近の白いものも見えなくなってゆきます。

気候により多少は早くなったり遅くなったりしますが、今年も桜（主にソメイヨシノ）がほんとうに綺麗でした。私たちの身近で枯れ木にパッと花をさかせる様子は、寒い冬が終わり今まさに春が来たことを告げているようで、なんだか明るくウキウキとした気分になります。

「年年歳歳花相似　歳歳年年人不同」

（ねんねんさいさいはなあいにたり
さいさいねんねんひとおなじからず）

いつ覚えたのかも忘れてしまって、意味すら分からない言葉がつい頭に浮かびました。意味を調べてみました。

中国の詩人の書いた詩の一部分でした。

「寒い冬が終わって春になると、昔と同じように花は美しく咲くけれど、一緒にこの花を見た人はもうこの世には居ない」そのあとに「若く美しい君たちに云っておく、若いと言うがすぐに年老い、黒髪も白くなってしまうぞ」と続くらしい。

自然の悠久（ゆうきゅう）さと人間の生命のはかなさを対峙（たいじ）させて、人生の無常を詠嘆（えいたん）した句である。せっかく華（はな）やいだ気分の春なのに、ただ楽しいうれしいだけでなく、人生の無常を思うようになるとは、やはりそれなりに歳をとったということでしょうか？

お正月

大みそかから元日にかけて、寝ている時間以外はほとんどテレビがついています。紅白歌合戦が終わり、「ゆく年くる年」では日本各地で深夜から初詣をする様子が流れます。朝の番組では、有名社寺での初詣の混雑ぶりが紹介されます。その様子をテレビで見て、「ご苦労なこった！」とつぶやきます。

日本で１位は明治神宮で、たった三が日で３００万人余りの人出でにぎわいます。ここから一番近いところでは、伏見稲荷大社が全国５位で２７０万人。しかし、人気ランキングでは全国１位ということです。

伏見稲荷大社は京都にあり、全国３万社を超える稲荷神社の総本宮です。

信仰心のない私ですが、有名な千本鳥居は一度見てみたいと思っていました。そして三が日で２７０万人という猛烈な人出を一度見てみたい、という怖いもの見たさに駆られて出かけることにしました。

平成２８年１月１日、あたりは真っ暗な時間から出発しました。

さすがに元日の早朝からうろうろする人はそうは居ない、高速道路は非常にスムーズに走ることができました。

昔は、名神高速道路の京都南インターチェンジを降り、非常に混んだ国道１号線を京都駅の方に北上していましたが、今は京滋バイパスから阪神高速８号京都線に乗り京都駅のすぐ南で降りた方が、京都の中心部に行くのは、よりスムーズなような気がします。今回も阪神高速８号京都線の鴨川西インターチェンジで降りました。

ここから伏見稲荷は車で行くと、おそらく１０分くらいです。計画では、京都駅から電車で１０数分だから駅前に車を停めて電車で行こう、という事でした。
しかし、インターチェンジを降りてみると、意外や、非常に車が少ない、というよりほとんど走っていない。

これなら近くの駐車場もおそらく空いているんじゃないか？といらぬ考えが浮かび、十条通りから左折して京都駅の方に行くところを、つい、伏見稲荷の方に直進してしまいました。その先を右折して師団街道に入ればもうすぐ伏見稲荷です。
やはり考えは甘かった。狭い師団街道に入るとすぐに渋滞。どうしようか？と思っていたところ、京阪本線の伏見稲荷駅のすぐ手前に、正月だけ臨時で営業しているような小さい駐車場に空きがあったので、速攻でその駐車場に滑り込みました。
チラッとみた駐車料金表にはありえない金額が書いてありましたが、見なかったことにして勇んで伏見稲荷へ出発しました。

師団街道から伏見稲荷の入口がある街道までわずか２００m位の間に、京阪本線と JR 奈良線の鉄道があります。それぞれの駅もすぐ近くにあります。
ここまでくればもうものすごい人です。次々にやってくる電車は超満員の人をはきだします。踏切では両方に駅員がいて、遮断機が下りだすと、「電車が来ます！止まってください！」とマイクで指示します。そして「右側通行でお願いします！」と何度も何度も呼びかけます。やはりそこは日本人、呼びかけ通りちゃんと全員が右側通行を守ります。参拝に行く人、参拝から帰る人、道からあふれそうな人なのにうまい具合に人は流れます。
次の踏切でもまったく同じアナウンスで、狭い通りながら着実に人は流れてゆきました。

いよいよ目的の伏見稲荷に到着し、最初の鳥居をくぐります。はるか前方に次の鳥居がありその向こうに楼門が見えますが、参道は一方通行みたいで、全て行く人の群れです。

楼門をくぐり本殿を横切り、千本鳥居をめざし稲荷山の登り口に差し掛かると上る人と下りる人が鳥居のところですれ違うため、大渋滞です。しかし大渋滞にもかかわらず秩序よく動いています。よく見るとキッチリ左側通行が守られています。この先の細い山道に入っても無言のうちに左側通行が守られていました。

やはり、戦後の動乱期に乗り物の都合で押し付けられた「右側通行」は人の本来の姿ではなく、「左側通行」が持って生まれた本来の姿だという事を改めて思いました。

ちなみに、千本鳥居の入口には、「千本鳥居は右側通行です」という横断幕が掲げてありました。

千本鳥居は左右に分かれていて、左右とも 400 本あまりの鳥居の数で合計で 800 本あまりですが、非常に多いという意味で千本という名前になっているようです。

この千本鳥居が通ることのできる一番小さい鳥居で、通ることのできる鳥居が山全体で３千本余りあるそうです。

柱の直系が１５ｃｍの鳥居 75,000 円から３０ｃｍの鳥居 1,302,000 円まで、だれでも奉納できるが、４～５年待ちらしい。

運動不足解消に稲荷山を約２時間かけて一周し、鳥居ももうううんざりするほど見たので帰ることにしました。時刻は午後１時 30 分ごろ、参拝客はいよいよ多く、稲荷山登り口は身動きがとれないほどの人でした。参道には多くの屋台も出ていましたが、あまりの人でゆっくり見る気分にもなれず、早々に退散しました。３が日で 270 万人の人出はやはりすごい！と思いました。いったいどうやって調べたの？という素朴な疑問がわきましたが深く考えないことにしました。

駐車場に戻り料金を支払います。『20 分 600 円ナリ』ありえないほどの駐車料金にビックリです。６６００円支払い伏見稲荷大社を後にしたのでありました。

平成 28 年３月 31 日